

★ 心に残っている あのこと このこと ◆

## 最後のピアノコンサート



隣室のピアノからK音大講師のSさんが奏でる音が、ベッドに臥せる瘦身のOさんを、温かく包んだ。「親しみのある、静かな曲がいいわよね」とある。一人娘を音楽家にしたいと、妻がに通わせ、購入したピアノである。

妻とケアマネのSさんが間近で聴く鍵族が往来してきた木の廊下を渡ってくる。師がたたずむ静寂な室内に響いている。緩んだように感じた。



選んだショパンの“ノクターン(夜想曲)”で別居してまでも下宿させてK音大の付属

盤の音は、曇空で薄明りの8月の中、家Oさんを囲んで、私と付き添いの若い医無類のクラシック好きだったOさんの頬が

続いてドビュッシー“月の光”が演奏された。押し寄せる荒波や風雨に、必死に歯を食いしばって、家族と共に生き貫いてきた、その人その人の人生。

Oさんは、神経難病で長患いした末に、高齢者宿命の病いである肺炎で倒れ1ヶ月半入院した。適切な病院治療により病状が小康となり、強い希望で退院される。長年、家族と住み、ピアノのある自宅での最後の時を過ごされる事を選択した。しかも延命治療は望まないと、御夫婦とも「公正証書」まで作られていた。それを病棟で呈示され、胃ろうは拒まれたので、苦痛対策の注射ができるルートをととの説明でIVHポートを選び、隔日の点滴を受けて1ヶ月前に自宅に帰ってこられたのである。

そして最後に、ベートーベンの“月光”が演奏された。厳粛なリズムが、淡々と流れる。帰宅したOさんは、9月の孫のピアノ発表会まで生きたいと、補液量増加を希望された。しかし、補液を増やすと痰からみが増え、呼吸が苦しくなり、耐えがたい苦痛が襲った。モルヒネもお願いしたいとアメリカから娘さんが直接電話して親の希望を伝えてきたが、妻と相談し補液を終了したのが退院3週間目のことであった。

苦痛はウソの様に消失し、酸素吸入も煩わしいと外した。その2日後が入浴予定日だったが、血圧50~80、酸素80代~90少しで、入浴のリスクが少なくない臨死状態である。しかし奥様が「亡くなってからキレイにするのではなく、生きているうちにキレイにして上げたい」と毅然と述べられ挙行となった。土曜日の午後、主治医と看護師付き添いのもと、入浴され、洗髪し、髭をそったのである。実に気持ち良さそうに浴槽につかったやせ細ったOさんは、輝いて見えた。

その翌日曜日、ピアノを聴きたがっておられたと聞いていた私の提案で、自宅ピアノコンサートが実現したのである。同行して足元から見守っていた若い医師が、「拍手していました」と、感激して語ってくれた。

そして、翌日帰国された娘さんにも見守られ、翌々日にOさんの80年余の人生が静かに幕を閉じたのである。

クリニックふれあい早稲田

院長 大場 敏明

◎ 私たちの事業所 ◎



# クリスマス会と正月の我が家



グループホーム「アカシアの家」 小規模多機能施設「ふれあいの家」



昨年 12/17、アカシアの家・ふれあいの家でクリスマス会を開催致しました。ご家族様や地域でお世話になっているお店の方、ご近所様もお誘いし、なんと総勢 60 余名！ 写真ではわかりづらいかもしれませんが、ぎゅうぎゅうに詰められています。



サンタとトナカイ登場はもちろんのこと、参加型のゲームも盛り上がり、あっという間の2時間でした。お帰りの際にはサンタからささやかなプレゼントもあり…

楽しかった！と好評をいただきました。この場を借りて、ご協力下さった皆様にお礼申し上げます。

## ★お正月★

そして、2012年の元旦職員が利用者様に着付けてもらいました。嬉しいねえ



美味しいおせちにニコニコ顔



こたつを出して、かるたや福笑い。(福笑いの顔はスタッフ作成、気持ち悪いと好評？でした)



◆初詣◆

今年も、むにやむにや……

お守り下さ〜い



皆と一緒に、ハイ！ポーズ

それぞれお正月を楽しんでいらっしやいました。

2012年も、アカシアの家・ふれあいの家をどうぞ宜しくお願いします☆

担当；寺崎織絵

アカシアの家 新施設長ご紹介

平成24年1月より「グループホームアカシアの家」の施設長になった秋澤尚美です。

アカシア会の理念に基づき、支援に取り組んでいきたいと思っています。スタッフ一丸となって頑張ります。



利用者さんと一緒に



覆面プロレスラーと楽しく交流しました

三郷市障がい福祉相談支援センターパティオ

在宅のSさん宅での一コマ

覆面プロレスラーら三郷の福祉施設等を訪問(ミステル・カカオ選手、バンクーバー・キャット選手、ザ・グレート・サスケ選手、フィッシュマン選手親子)

障がい者の方々へ社会参加の機会提供ということで、プロレス観戦無料招待を3年前から続けて来ています。同時に自分らも応援に行こうと毎年恒例になりつつある施設・個人宅の訪問を行っています。初めは怖がっていた方も今では、笑顔で出迎えて来ています。

三郷市立瑞沼市民センター「障がい者交流ルーム」での交流の様子です。



みんなで楽しく交流を



福山さん、西川さんがプロレスラーと

サスケ選手は「人という字は…」と金八先生を真似て笑いを取り、カカオ選手はフィッシュマン選手(メキシ

コ人)らを通訳しながら皆の質問やサイン攻めにも丁寧に答え、キャット選手は猫招きポーズでほのぼのと…交流ルームは温かい雰囲気になりました。

当事者、家族、支援者でせっかく集まったので皆で話をしました。身体障がいの方や脳性まひの方、知的障がい、精神障がいの方など障がいは異なりましたが「精神障がいとは?」「自分のしているボランティアについて」「スポーツが好きだけど、障がい者スポーツにはどんなものがあるの?」など、話題が尽きませんでした。

参加した2人に感想とこれからや要望を聞きました。  
<福山太一さん>

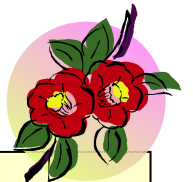
『交流会にカカオさんサスケさんが来て「部屋にこもっていると運動不足になるし、陽に当たって、外へ出た方が良い。頑張ってるね。」と励ましてくれて嬉しかった。その後のミーティングでは色々な人と話をしたけど、難しい話をしている、自分にはちょっと分からなかった。でもとても楽しかったです。自分の今後の目標は、まずは作業所へ行き、一生懸命働いてお金を貯めたいです。夢は無理かもしれないけど脚本家になりたいと思っています。その為にも今の自分を変えなくちゃ。できるかな?? 最近、週1回だけ地域活動支援センターパティオへ通い始めました。』

<西川健一さん>

『今回のプロレスラーの訪問は意外性もあるし、意識に残りやすいし、慣れた対応でとても良かったと思う。10分位しか居られないと言われた割に長かったですね。向こうの気分も乗ってくれたんでしょうか、いい感じでした。交流は、精神障がいのある方の、想いや状況、症状、今後についてなど聞けて、ストレスなく話できて満足できました。』

皆さんそれぞれの思い出が出来たようですね。障がい者同士が交流できる場の機会がもっとあるといいですね。地域にはまだ外に出られず悩みを抱えている方がいます。様々な方法や形での交流の機会と場を広げる事が一つの地域課題ではないでしょうか。

担当:稲垣 裕子



### 【編集あれや これや】

編集担当:長島喜一

◆前回の通信で紹介した、ディサービスふれあい倶楽部の利用者さんの「自分史づくり」、その後のエピソードの一つ。◎さんは、完成した自分史がとっても気に入ったようです。その自分史を家でもディでもいつも自分の傍においています。「この本は何ですか」と尋ねると必ず「さあ? 何かしら? 誰のかしら?」とおとぼけ? でもとても大事な本のように鞆の奥にしまわれています。ディで読んでいるのを見たことがないのが残念ですが…。自分が生きてきた証を形に表し残すことの大事さをあらためて学びました。(阿部)

◆新たな事業所がニヶ所誕生します。一つは、高齢者支援として2ヶ所目の小規模多機能施設「えがお」(ディサービス、ショートステイ、訪問介護)。二つ目は、障がい者の働くことの実現目指して支援する障がい者就労移行支援事業所「ラ・ポルタ」です。

二つの事業所は、3月のオープンを予定し工事と準備が急ピッチで進んでいます。ご近所の皆様には、工事の騒音等でご迷惑をおかけしていますが、よろしく願いいたします。